

午後2時7分再開

○議長（中島秀樹君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、12番大庭きみ子議員の質問を許可いたします。12番大庭きみ子議員。

（12番大庭きみ子君登壇）

○12番（大庭きみ子君） 皆様、こんにちは。12番大庭きみ子でございます。先日は春の嵐が日本列島を吹き荒れておりましたが、寒さの厳しかった被災地にも季節はめぐり、もうすぐ春が訪れようとしています。

ことしの3月で退職されます安部局長を初め、15名の退職者の皆様方、長い間、朝倉市の発展のために御尽力いただきまして、まことにありがとうございました。そして、大変お疲れさまでした。

昨年は7月5日に九州北部豪雨災害が発生し、これまでにない甚大な被害を被り、怒濤のごとく過ぎ去った激動の年でもありました。市長も過労のため入院されておりますが、その心痛や激務は大変であったろうと心からお見舞い申し上げます。

また、職員の中には、自宅や身内、親戚などが被害に遭われた方もあると聞いています。それでも、災害発生時から、市民の命と生活を守るために、捜索活動支援、避難者対応、支援物資の受け入れやインフラの復旧、災害ごみの対応など多岐にわたる業務が急激にもたらされ、日夜を問わず奮闘されたことだと思います。大変お疲れさまでした。

昨年の12月の災害査定期日前には、朝倉支所での農地・林道災害復旧事業や杷木支所での公共土木施設災害復旧事業などで、おそくまで残業されている職場を回らせていただきました。県内外からの自治体職員の派遣を受けてはおりますが、本庁での自分の持ち場の仕事が終わって、6時ごろから応援に駆けつけている職員もあり、朝方の2時か3時ごろまで仕事をしているということでした。

中には、4日も5日も家に帰れず、机に伏して仮眠をとり、夕食を食べる時間も惜しいとおにぎりを片手に仕事をしている状況でした。正月も休めるかどうか分からないという課もあり、まさに不眠不休での大変な激務であったことだと思います。本当に御苦労さまでした。

査定期日までに予定していた申請が終了したとのことですが、いまだに200時間を超える時間外労働を余儀なくされている職場もあります。精いっぱい努力はされていましたが、これからは復興事業等により健康被害を出さないための対策が必要だと思います。

査定の内容も少しは簡略化され、仕事が効率化されたとのことではありましたが、災害から余りにも時間が足りない過酷な状態であり、他市では査定期日が延長になっているところもあります。なぜ朝倉市はできなかったのか、政治力の課題が残っています。

さらに、これからは、復旧・復興に向けての取り組みが始まります。復興のまちづくりは、災害前の町に戻すだけでなく、災害前の課題や災害後の課題を解決しながら、災害前より安心安全で暮らしやすいまちづくりをしていくということが復興のまちづくりにつ

ながっていくものだと思います。まだまだ時間はかかりそうですが、行政、議会、地域住民と一体となって取り組んでいかなければなりません。ともに知恵を出し合いながら頑張っていきたいと思います。

それでは、通告に従い、一般質問を続行いたします。よろしくお願いいたします。

(12番大庭きみ子君降壇)

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） それでは、通告に従いまして、まず最初に、平成29年7月九州北部豪雨災害復興について質問してまいりたいと思います。

昨年7月の朝倉市の豪雨災害から既に8カ月近くとなり、いよいよこれからが本格的な復旧・復興が進められていくことと思います。

先日、市内3カ所にて、復興計画の説明会がなされておりました。私は、日時の都合で杷木会場に出席いたしました。活発で貴重な意見も飛び交っておりましたが、内容については復興計画の特別委員会で審査されますので、ここでは長期的な課題と視点について質問していきたいと思います。

今回の豪雨災害によって、全国からこの朝倉市にボランティアの方々がたくさんおいになり、いろんな方との出会いがありました。1つには、千葉県から女性の外科医師の方がわざわざボランティアで朝倉に来られ、災害母子支援センターきずなに泊まられておまして、それからの御縁ができ、ぜひとも今の東北の復興の状態を見てほしいとの勧めで、2月8日から11日まで、3泊4日で東北まで視察に行ってきました。仙台から宮城県、岩手県、青森県と、津波の被害の大きかった三陸海岸沿いを見ながら、1,000キロからの距離を走り回ってきました。

防潮堤だけは国の予算で高くつくられておりますが、住民の住宅はまだほとんど手がついていない状態であり、復興商店街も人の姿が少なく、工事関係者の利用者はいるが、工事関係の人がいなくなったら商店が成り立たなくなってしまうと、大変力を落とされた様子が見られました。7年たってもまだこの状態なのかと、唖然とさせられました。

被災自治体での取り組み方によって、各自治体での復興の格差が大きく出てきています。その中でも、被災後、大変御苦労され、市民の信頼も厚く、復興に精力的に取り組まれました宮城県東松島市の前市長の阿部秀保氏に会うことができ、お話を聞いてまいりました。この東松島市も、1,100人からの犠牲者がおられ、大変甚大な被害が出ております。その大変な被害が出ている中にも、この市長の信頼は厚く、大変活躍をされた市長ということで、評判も大変よかったところであります。

この市長が言われる中には、まず政治家は夢づくりであると。市長は、やる気のある人を伸ばす、市長の後ろ姿を見せることが大事、そして、災害時には、後延ばしせず即決する、方針を早く出すことが大事であると話されていまして。復興も、現状復旧だけではなく、市民が希望の持てる町の発展の姿を描き出し実行することが本当の意味での復興とな

る。そのためには、個性的で力強いビジョンを挙げ、そのビジョンを実行するために、多様な事業を実行していかなければならない。また、この市長みずから、被災後2カ月間は市役所に泊まり込みをされていたということでありました。

市長は、災害対策本部から離れられないので、市長みずから市民へ防災無線で情報提供と激励の言葉を毎日放送し、それも1日に3回されていたということでありました。市長の生の声で伝えるということは、とても大事なことだなと思いました。

たくさんのお話をお聞きしたのですが、時間が足りませんので、今の大きな課題は何ですかという質問をいたしましたところ、今の大きな課題は人口減少と話されていました。被災後の自治体は、どこも人口が減少しています。

朝倉市も、みなし仮設や自主避難で市外に避難した方も多くおられます。早期にしっかりとした対策をとっていかないと、戻ってこられなくなり、さらに人口減少が加速していきます。ハード面だけでなく、長期的な視点で捉え、対策をとっていかねばならないと思います。特に、最初に復興計画を進めるときに、このビジョンをきちんと持つておくことがすごく大事であるというお話もされておりました。ハード面だけが復興しても、そこに住む人たちの心が折れていたり、病んでいたり、または市を離れていってしまつては、ますますその地域は衰退をしていきます。だからこそ、今が大事なんですよというお話をされました。復興計画を始めるときのこの長期的ビジョンをどれだけ持てるか、市民に夢と希望を与えられるか、それはとても大切な政策の一つだと思っております。

それで、まず、4点、ここに掲げさせていただいております。

まず1つは、人口減少への対応です。この人口減少への対応について、どのようにお考えになっていらっしゃるか、基本的なところのお考えをお尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 副市長。

○副市長（中野信哉君） 災害からの復旧・復興は言うまでもございませんが、あわせて、議員が言われます長期的な課題は、行政に課された大事な課題として認識をしてございます。

まず、人口減少の対応につきましては、平成27年10月に策定いたしました朝倉市人口ビジョン、同年度末の朝倉市総合戦略に基づき、引き続きこれは取り組んでまいるところでございます。

朝倉市は、人口の社会減が続いております。特に、大学等の進学や就職で、10代後半から20代の流出が多いので、若者の地元就職を促すために、地元企業とのマッチングとして、高校生就職応援会や地元企業の地元採用枠の拡大を働きかけてまいります。

それから、将来を担う人材の確保・育成ということで、集落支援員など人材を育成・活用して、地域若者と協働しながら取り組んでまいります。

それから、地域経済社会の活力の維持・拡大という点で、まずは営農再開の支援を最重点として、県、JAと技術的な支援を行ってまいります。また、商工団体などとも連携し

て、地元企業への支援も引き続き、金融面あるいはプレミアム商品券発行、そういった面で支援をしてまいります。

それから、起業に関する支援、これにつきましては、起業支援事業補助などございます。また、起業誘致についても、産業政策マネジャーを活用して、積極的に行ってまいります。それから、市町村の枠を超えた広域的な地域振興についても、広域連携プロジェクトですとかそういったものを活用し、しっかり取り組んでまいります。

朝倉市に訪れていただき知ってもらい、そしてリピーターとして朝倉市のファンをふやすための施策を、復旧とあわせて広域的に取り組むように考えてございます。そういったところをしっかりとやってまいりたいと考えております。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） きょうは副市長しかおられませんので、副市長の立場でお答えいただいたんだと思います。それはもう、この災害が起こる前からの課題でございまして、もちろんそれも課題解決をしていかなければいけないのですが、災害が起こって、さらにまた状況が今変わってきております。こういう中で、より朝倉市の魅力を出していくか、どれだけこのふるさとに戻りたいという人たちをつくっていくか、そのあたりが私はすごく知恵の出すところではないかなと思っております。そういう意味で、やはり工夫をしていかなければ、自然減になびいてしまいます。これは、市長がいらっしゃれば、市長のマニフェストの中にどういうふうに取り入れられるかというのをお聞きしたかったところなんです。本当に朝倉市の10年、20年先を見据えたビジョンをこの災害復興とともに出していかなければ、ますます人口減少に陥っていくだろうなと思いました。

それで、ここで副市長を問いただしても、申しわけございません、もうそれ以上は失礼かなと思いますが、この朝倉市がやはり個性豊かな地域と輝いていかなければ、若い人にとって魅力はないと思います。今、大変目先のこととか、今起こっている災害の復旧対策に追われてあり、とてもそんな余裕はないと思われる方々も多いかと思いますが、今同時にやっておかなければ、東北で見てきたやはり災害と同じような状態になっていくのではないかなと思っております。

東北のほうも、今、国の予算で、もう何兆円という莫大な金額で防潮堤がつくられております。行く先々、ずっとトンネルをくぐっているみたいに防潮堤が高く積まれておりまして、本当に三陸海岸、風光明媚な観光地であったはずなのに、外の風景も見えない。そして、その中に住んでいる人たちの整備は防潮堤のためにまだ予算が回らずにおくれているということで、住んでいる人たちはもう市外に出ておられます。ということで、人がいない。防潮堤だけが延々と伸びている。それに何兆円という国の予算がついているという中で、本当にこれが復興なのだろうかと考えさせられました。

例えば、道路を高くすれば海がよく見え、海の状態が見え、安心安全に逃げられる。もし、津波が起きたときにも避難できる。しかし、それも住民の声として上げていたけれど、

これは国策として下りてきたということで、全く住民の声も通らなかったという話でございました。やはりそこに住んでいる人たちの思い、気持ちを大事にしながら、そしてそのよさをさらに発揮できるような、やはりそういう計画が私は復興計画の中に入っていくべきだと思っています。

今、大変ハード計画がしっかりと立てられておりまして、御苦労かけておりますが、それプラス何か朝倉市のビジョン、朝倉市の魅力を私はそれ以上に出せるような、そういう復興計画であってほしいと思っています。それは、文章に書くのは難しいかもしれませんが、やはり政治を預かる者として、きちんと私は考えておかねばならないのではないかなと思っています。

それで、やはり人口減少というのは、とても痛いんです。ただでさえ消滅可能都市と言われている朝倉市ですので、2040年、あと20年でもう消滅可能都市と言われているこの朝倉市で、やはりそのこともしっかりと考えておかないと、若い人たちが出ていってしまい、さらに子どもたちがいなくなってしまうたら、あとは高齢化した社会だけが残っていくということになると思いますので、私はぜひともここはもう人口増加の対策もとっていただきたい。ましてや、働く場所、さっき副市長言われました、雇用の場の創出、そして子育てしやすいまちづくり。やはり若い人たちは、今、子育てに不安を感じて、しやすいところに移動しやすくなっております。特に、災害が起きて、市外に出ている若い世帯がたくさんいらっしゃると思います。朝倉市でも、子育てしやすい、安心してここに戻ってこれる、そういう地域も必要ではないかなと思っています。そのあたりの考えがないのかなと、ちょっと残念に思ったんですが。

それともう一つ、済みません、福島の前松島の話をしていしますと、災害公営団地をつくる時に、スマート防災エコタウンという、これは積水ハウスの共同事業で、災害公営住宅全体が太陽光発電で電力の自給自足ができるというまちづくりをされています、100戸ぐらいの町ですけど。この前松島スマート防災エコタウンというのが、ことしの4月の第27回地球環境大賞に選ばれております。これは、積水ハウスとの共同事業なのですが。こうして本当に災害公営住宅をつくるにしても、これから先を見込んだ太陽光発電での自給自足と言われて、3日間、1週間は電力が災害が起きても賄えるというような、そういう新しいアイデアを取り入れた復興タウンができております。

このような新しい考え方も私は必要なんではないかなと思っていますが、何かそのあたり、考え方がないのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） そのようなメニューがあるということについては研究中ではございますが、本市におけます災害復旧につきましては、現在決定しております災害公営住宅については、まだそのような計画は持っていないところでございますが、いろいろなメニューが国から示されてはいますので、今後の住民のニーズと、それから私どもの安

全であると考えられる土地の確保と、そのような調整を図りながら、私どもに可能な住宅の整備というものを研究してまいりたいと思っております。以上です。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） 人口減少の対応について、何か具体的なお考えはないかなと思うんですが、そのあたり、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 人口減少の全般的な考えにつきましては、副市長が申したとおりでございますが、私たち、こういう復興計画なり復興を今後進めていくという中での考え方でございますけれども、総合戦略、それから第1次朝倉市総合計画等の長期計画等の整合性を図るというふうに整理して、復興計画をつくり上げたいと思っているところでございます。

と言いますのは、その中身といいますのは、復興計画ができ上がるといたしましても、それは総合戦略、いわゆる人口減少対策でございます。そういった人口減少等をしっかり念頭に置きながら復興に当たっていくと思っております。

具体的な人口減少対策といいますのは、毎年の予算の中でも、例えば分野ごとに組み上げてまいりますし、それからどういった考え方でいくかということにつきましては、議員の皆様にもお示ししていきたいと思っております。要は、人口減少対策をしっかり念頭に置きながら、今後、長期的な考え方、長期的にまちづくりをすすめていきたいと思っております。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） そうですね。今、結構、被災地ということで、いろんな方がこの野菜を買いにきたり、いろいろ見学に来られたり、そういうことで少しでも支援をしたい、財政的な経済効果の支援をしたいという方もふえてきております。何かそういう中で、被災地を生かしたといいましょうか、本当に頑張っている朝倉市の特産品とか、そういうことを通しての交流人口を図っていくとか、本当においしい野菜が食べられるとか、そういうことで定住人口につなげていくとか、何かそういう、今の逆境を乗り越えながら、さらに朝倉市に足を運んでいただく、また注目をしていただくとか、そういう取り組みというのも大事ではないかなと思っております。本当に災害復興も大変で、そちらに皆さん、関心を持たれておるんだと思いますが、今からこうやって人口が減っていく中でどうやって人を呼び込んでいくか、まだ朝倉市にはたくさん資源があると思っております。そのあたりをしっかりアピールをしていく、そしてまた地域経済の活力の維持というのも大事になっていくのではないかなと思っておりますが、そのあたりの考え方というのは、今のところ、何もないのでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 副市長。

○副市長（中野信哉君） 従前から、そういう広域的な取り組みであったりして、定住、

移住、交流人口、そういったものをふやすための取り組みはやってきてまいっているところでございます。

議員の御指摘にありましたとおり、災害以降、非常に全国的な知名度が上がっているのは、私たちも実感しております。非常に遠くの方が買い物に来てくれたり、朝倉という名前を知ってくれて、例えば職員採用なんかにしましても、ことし非常に遠方から受験される人が多かったところがございます。そういったところで、逆の利点といいますか、災害をきっかけに、これはいわゆるピンチをチャンスというようなきっかけであるというのは非常に実感しておりますので、従来やってきたそういう交流人口の拡大とか、そういったところについても、担当部署には、これはもう非常にチャンスであるということで、新しいことをどんどん考えていこう、力を入れてやっていこうということは意識づけはさせておるところであります。こういったことを、しっかり当面やっていくということでございます。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） 大変お疲れのところだと思いますが、今、本当に全国から朝倉市は注目をされております。そして、この復興も、皆さん、関心を寄せていただいております。何かこれがもう、今、全国版になっているんですね。毎日、朝倉市のことは報道されていますし、朝倉の応援をしようというプロジェクトもいろいろできております。ピンチをチャンスに変えていく、何かこういうきっかけにしてさらにこの朝倉市を売り出していくというか、本当に災害を受けただけで疲弊してしまうのではなくて、災害をバネにして、それを全国に展開できるぐらいに打って出るぐらいの、やっぱりそういう政策を打っていただきたいなど。それぐらいしないと、朝倉市の元気は取り戻せないんじゃないかなと思っております。

本当に、現実だけを見ていると、目の前が希望が持てなくなってしまうんです。でも、やっぱり政治というのは、夢を住民の方に与えて、希望を持てるような政治をしていかなければいけない、政策を出していかなければいけないと思っています。だからこそ、今、全国区になっているこの朝倉市のブランドを、やはり全国展開できるような、そういうこともあえてやってほしい。今、たくさん毎日放送されていますので、朝倉のよさをアピールしていくとか、やっぱり各課がアピールを出していくという、そういうことも今同時にやっていかなければ、復興計画が10年終わったときにはもう誰も住んでいないとか、本当に人口が減ってしまっているという形になってしまわないかなと大変心配しております。ぜひそういうことを考えて、一緒にやっていただきたい。長期的ビジョンを持ちながら、私は取り組んでいただきたいと思っております。これは要望といたしまして、次の視点についてお尋ねをしていきたいと思います。

特に復興計画を進めるに当たっての視点ということで、本当に住民の方の声を聞きながら寄り添ってやっていくということはとても大事なことだと思っています。しかし、ソフ

ト面も同時に進めていかなければ、本当に住んでよかった、住み続けたいまちづくりにはならないと思います。その中で、やっぱり私たちが思うのには、次世代を担う若者や女性、あらゆる人が復興に参画し、活躍できるような地域づくりを推進していったほしいなと思っております。こういう若者、女性などが参画できるような地域づくりについてどのようにお考えか、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） まず、朝倉市の復旧・復興事業の考え方でございますが、被災者の思いが反映してくるように、計画の段階から地域住民との協議の場を設け、合意の上で進めてまいるという考え方でございますけれども、今後、当面復旧事業ということになってまいりますけれども、地域の将来を担う若者、さらには女性の方々の意見も大切にしていきたいという基本的な考え方を持っているところでございます。

実は、復興に当たりまして、復興計画策定委員会というのがございますけれども、その委員の中には、女性の声、それから若者の声というものを反映するように、例えば農協の女性部とか商工会女性部、それから青年会議所等を充てまして、特に女性、若者を反映するようにしてきたという思いがございました。

今後、復旧・復興を進めていく上でも、そういった委員の参画を求めるとか、地域での話し合いの場でも、そういった女性の方の意見につきましてもきちんと聞いてまいるというような姿勢で臨んでいきたいというふうに思います。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） 先日も、フレアス甘木で風おこしフォーラムというのがあっておりまして、部課長さんも随分出席いただいております。本当にありがたいなと思っております。

その中でも出ていたんですが、例えばそういう復興計画とかに案内を出すときにも、夫婦で参加できるような宛名書きの案内状を出すとか、そういうことも大事なかと。本当、小さなところなんですけど、世帯主だけではなく、みんな、夫婦で参加できるとか、計画の段階からですね。そういうことも工夫されていると話も出ておりました。

やはり今、どうしても地域コミュニティというのは高齢者が中心になってくるんですが、その中で若い人たちが住みやすいまちづくりをしていくためには、若者がやっぱり参画できるような仕組みづくりをしていかなければいけないと思っています。特に、復興商店街、今、視察してきたところでは、女性の起業や若い人たちが頑張っているグループが目立っております。やっぱりこういう女性の力というのはすごい粘り強いというか、本当に生活に根ざした、生活力があるなという感心をしたんですけれど、そういう方たちを育てていくという視点も大事なかと思っております。

そういう方たちを育てていくような研修会というか、リーダーを対象とした研修会とかも開かれてはどうかというふうに、支援が必要ではないかなと思っております。それは、

計画が遂行されていく中で、やはり女性や若者の参加を進めるような、そういう仕組みづくりをできるような研修会なり考える場をつくってほしいなと思っておりますが、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 基本的には、私ども、男女共同参画推進条例も持っておりますし、そういう大きな考え方のもとでさまざまな取り組みを行っていくということで、女性参画を推進するような部署も設けておりまして、そこがきちんと機能しておるというふうに私どもは思っておるところでございます。そういう中で、個別の研修会とか、それとかさまざまなイベントとかを行ってまいるということになろうと思っております。

参加の仕組みということですが、なかなか若者が、今、イベントなりこういった計画づくりにみずから参画するというのが少ないというような現状は認識しているところでございます。しかしながら、この復興を契機といたしまして、若者もボランティアに参加をするとか、そういった動きが出てきておりますので、そういった動きをきちんと市として受けとめながら、若者参画、女性の参画といったものを次につなげていく、拡大していくというような動きにつなげていけたらいいなというふうに思っているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） 本当にボランティアの方は、若い方たちがたくさん参加してありました。何かこの力を本当にこれからも復興に使っていただきたいなと思っております。市外から来てある方もたくさんいらっしゃるんですけど、やっぱり地元で頑張っている団体もたくさんあります。これからは、こういうコミュニティとか民間、またボランティアとの連携、協働というのがすごく大事になってくると思っております。ぜひともその取り組みを強力に推進していただきたいなと思っておりますが、そのあたりの考えがありましたらお尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 現在、具体的にこれといった取り組みのものがあるわけではございませんけれども、その考え方につきましては大切だと思っておりますので、今後、そういった取り組みを重ねてまいりたいと、形成していきたいと思っております。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） そうですね。コミュニティも本当に大事な力だと思っておりますが、今、コミュニティがまた壊れてしまっているところもありますし、コミュニティの再生というのもこれからの課題になってくるかなと思います。陸前高田でしたかね。地域のコミュニティがしっかりしているところには、やっぱり住民が戻ってきているんです。90%ほど戻ってきているという話も聞きました。また、この地域のコミュニティがばらばらになっているところはなかなか戻ってきていない、住民が帰ってきていないというところもございまして、やっぱりコミュニティづくりというのがすごくこれからの一つの大き

なポイントになっていくんではないかなと思っております。ぜひとも地域のコミュニティづくりに力を注いでいただきたいなと思っております。特に、ひとり暮らしの高齢者もふえてくる状況も見えてきておりますので、そのあたり、孤立させないようなコミュニティづくりとして、ぜひとも市のほうも考えていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 復興に向けた話になりますけれども、復興計画の中には、基本理念というものを設けたいと思っております。その中の第1の項目として、安心して暮らせる住まいとコミュニティの再生というものを位置づけしているところでございます。地域とのつながりを維持しながら、住みなれた地域で安心して暮らせる住環境を整備し、住まいと暮らしの再建とコミュニティの再生を図るという考え方でおります。コミュニティの維持・再生が円滑に行われるように、コミュニティ活動や地域行事等への支援を検討してまいるという考え方を持っておりますので、そういった基本的な考え方をもとに、個別の事業、取り組み等を今から形づくっていくといったことが、復興の大きな場面といたしますか、復興の大きな位置づけになると思っているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） ぜひともよろしくお願いいたします。私、これ、防災を担う人材育成ということも、地域のコミュニティも大事だと思っているんですが、一昨年、随分前に防災士の養成のこともちょっとお尋ねしたことがありました。熊本震災が起きたときに、防災士を養成してはどうかという話をしておりましたが、まさか朝倉市に起こると思ってもいませんでしたし、皆様方もそうだったと思うし、防災士の養成については、余りいいお返事をいただいていたんですが、やはりこれからはもう地域の中で自分たちが担えるところは担っていく。だから、やっぱり防災士も、防災を担う人材育成も大事かなと思っておりますので、地域のコミュニティとともに、そこも今後考えていただきたいなと思っております。これは議題に挙げておりませんでした。近隣の市町村でも、こうやって防災士の育成に向けて取り組みが少しずつ始まってきております。特に、女性の防災士も必要だということでしたので、これもあわせてぜひ御検討いただきたいなと思っております。

次に、朝倉市復興計画推進委員会というのが、仮称ではございますが、復興計画の中に上がっております。この推進委員会の設置の目的をお尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 復興計画推進委員会でございます。

復興計画につきましては、今年度末までに策定していくという計画でございますけれども、計画自体は復旧・復興に係る地区別の工程表を含めた基本的な事項をまとめているものでございますが、策定後の進捗管理が重要になってくると思っております。仮称ではあ

りますが、次年度以降に復興計画推進委員会を設置するということでございますが、その目的といたしましては、住民に情報を提供しつつ、必要に応じ、施策の見直しや復旧・復興に関する提言を行いながら、柔軟性をもって計画の着実な推進を図るというものでございます。以上です。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） 大変やっぱり進捗状況をチェックしていくということは、とても大事だと思っております。今、仮称ではございますが、この構成とか人数とか、どのようにお考えになっているのかお尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） まだ案の段階でして、今の現時点での考え方といたしましては、地域の住民の代表、これは8コミュニティの代表を考えております。それから、市内の関係機関、経済産業の団体等、それから学識経験者での構成を考えておるところでございます。以上です。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） ぜひ、この推進委員会のメンバーの中にも、女性を入れていただきたいと思っております。本当に生活に根ざしたところというのは、やっぱり女性の視点で検証していくことも大事かと思っておりますので、それは半数ぐらい女性がいていただいてもいいかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、その委員会で出された意見というのを、本当にまたフィードバックしていくということがすごく大事になろうかと思っております。例えば、庁舎内でもう一回ワーキングをするとか、これもいろんな、東北のほうを見たときにも、やっぱりそういう計画推進委員会がありまして、きちんと事業評価も出されておりました、その反省に基づいた改善点、またそれもきちんと住民にお返しをされているという実態を勉強させていただきました。やっぱりこういう市民の声を入れた進捗、計画の推進というのは、とても大事になってくるかと思っております。今からだということですので、ぜひともそのあたり、市民の意見がきちんと反映されるような、そして意見が出たことに対してはきちんと回答して事業評価をしていく。それをまた皆様方に情報提供として公開をしていただくとか、そういうこともずっと必要になってくるのではないかなと思っておりますので、そのあたりもしっかりと考えていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

何かありましたら、よろしくお願いいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 議員おっしゃいますような形で進めていきたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） 次の質問に移らせていただきます。

次、平成30年4月からの組織機構についてということで、職員の職務体制について質問

したいと思います。

全協で配られました資料には、新しく課が2つ設置されるということで、特に農地などの再興を図るために農地改良復旧室と、あと公共土木施設災害復旧班を独立して対策室へ格上げされるということなのですが、4月からスタートされるというわけで、現在の人員配置とかの状況はどのようになっていますでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 現在の状況でございます。

市町合併以降、その効果及び行革の視点から組織の見直しを実施するとともに、職員数を削減してきたという状況がございました。その折の災害発生ということでございまして、限られた職員数の中で、職員の負担軽減を図るために、当初から、福岡県を初め県内、山口及び全国の自治体からの派遣と職員の支援を受けながら、またそれぞれの職場の協力により、職員の兼務・異動の辞令を発令し、その他臨時の職員の配置等、体制づくりに努めてまいったということでございますが、十分ではございません。

平成30年度の各自治体からの中長期派遣についても、朝倉市の希望要請人員には届いておらず、まだまだ不足しているという状況でございます。現状はそういう状況でございます。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） まだ要望人員には不足しているということでございますが、やはり職員の、今、労働環境改善というのは大変重要なことは思っております。2月5日の西日本新聞でも掲載されておりましたが、過労死ラインを超えているという部署もあり、またこれからさらに200時間を超える可能性のある部署もあるというようなことも聞いておりますので、やはりこのあたりの改善と職員の健康管理、これはもう12月の議会でも聞いておりましたので、対応したいという答弁をいただいております。その後の健康管理に対してとか、改善についての対策がどのようにとられているのか、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） その後ということでございます。

これまでも市の産業医とか福岡県及び福岡県精神保健福祉センター、北筑後保健福祉環境事務所の支援をいただきながら健康対策を行ってきたということでございますが、最近の状況でございます。

1月には、係長以上を対象に、市の産業医によるメンタル研修会を行いました。また、2月には、メンタルヘルス対策専門医派遣事業によりまして、全職員対象のメンタル研修、それから2日間にわたる個別面接を実施してまいりました。「災害を乗り越えるために大切なこと」と題し講演をいただきながら、疲れている自分を、また周りの人を責めず、仕事だと思って休む。それから、長期戦を戦い抜くためには蓄積疲労をケアすることが欠かせないなど、職員への気づきを促したところでございます。

今後も、産業医面談を主体といたしました健康相談をできる限り充実させ、健康状態の把握に努めたいと思っております。また、健康配慮の面から、休暇が取得できるような体制づくりに努めたいと思っておるところでございます。心身の健康保持を第一に考えていきたいと思っておるところでございます。以上です。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） いろいろ対策をとっていただいているようですが、現在、病休で、またメンタルなどの体調不良で休んでいる職員の人数がわかれば、お尋ねします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 現在の病気休暇等でございますが、現在の状況です。2月28日現在の状況でございます。全部で14人が病休所得中の者でございますが、そのうち11人がメンタルでございます。11人中7人が災害後の発症者でございますが、再発分もございますので、新規に休暇をとっている者はそのうち5人ということでございます。

もう一回整理いたしますと、14人中11人がメンタル、そのうち発災後は5人が新規に出たという状況になっておるところでございます。

ちなみに、平成29年の2月、ちょうど1年前の状況でございますが、全部で14人の病休取得者がおりまして、そのうち10人がメンタルの病気で行きました。そういう現状でございます。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） 大変過酷な状況の中で、皆さんお仕事されているんだろうと思います。今、改善されていないというか、若干ふえてきていると感じておりますが、この病気療養中で欠員になった今度は職場に対して、職員補充とかはなされているんでしょうか。周りの方が今度は業務が過重になったりとかしていないかな、何かそのあたりの対策はどのように考えていらっしゃるんでしょうか。お尋ねします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） そういう長期休暇取得中の職員につきましては、非常勤の職員とか嘱託職員、それから短期的であれば臨時職員、それから派遣職員等を充てるといったような対応をとっているところでございます。以上です。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） 周りの方にも負担がかからないように、なるべく職場での迅速な職員補充をお願いをしたいと思っております。また、新聞報道によりますと、11月にストレス調査をしたときに、高ストレスと判断された職員が23.2%、107人に上るというふうになっているんですが、本当にそうやってストレスを抱えながら皆さんお仕事してあると思うんですが、これも例えばもうラインケアですね。ヘルスケアというのは、今、研修で皆さんそれぞれにやっているとおっしゃっていたんですが、そういうふうに休みをとれるような体制というのを行政として指導していくべきではないかなと思っておりますが、そのあ

たりはどのように御指導されていますでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） まず、日ごろから、役職者が職員の不調等についてきちんと把握、対応ができるようにしなければならないと思っているところでございます。そのためには、相談しやすく働きやすい職場づくりも大切でありますので、セルフケアはもちろんのこと、研修の充実等、役職者を中心に少しでも改善に努めたいというふうに思っているところでございます。

ストレスがあるということは、それはどうしようもないということかもしれませんけれども、そのためには、先ほど言いました、仕事だと思って休むという自分のセルフケアも大切ですけれども、職員へ例えば代休をきちんと取得させるとか、それから休暇については自分できちんととること、それを仕事の一部だと思ってするとかという意識づけをさせるとか、そういったことに努めていきたいと思っております。

休暇は、仕事を進める上で重要なものだ、私どもも認識しておるところでございます。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員。

○12番（大庭きみ子君） 部長も大変お疲れだなと思っておりますので、休暇をとってください。ここにいらっしゃる本当に幹部の方も、皆さんお疲れだなと思って見ておりましたけど、市長もこうやって過労で入院されて、入院になると余計、周りの方たちがまた負担がかかっていくわけですので、そのあたり、自分たちの体は自分たちで守るのもまず一つだと思いますし、本当に激務だと思っております。そういう中で、復興に向かうためには、皆様方の力が必要です。だから、よい仕事をしていただくために、健康で前向きに取り組んでいただきたいと思っていますし、ストレスをためないように、ぜひストレス発散をしながら、健康管理に気をつけていただきたいと思います。

きょうは市長がいらっしゃらないので、本当に何か不完全になってしまいまして、ちょっと質問がしづらかったんですが、これで私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（中島秀樹君） 12番大庭きみ子議員の質問は終わりました。

以上で、通告による一般質問は終わりました。

これにて一般質問を終了いたします。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は、5日午前10時から行います。

本日は、これにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後2時59分散会